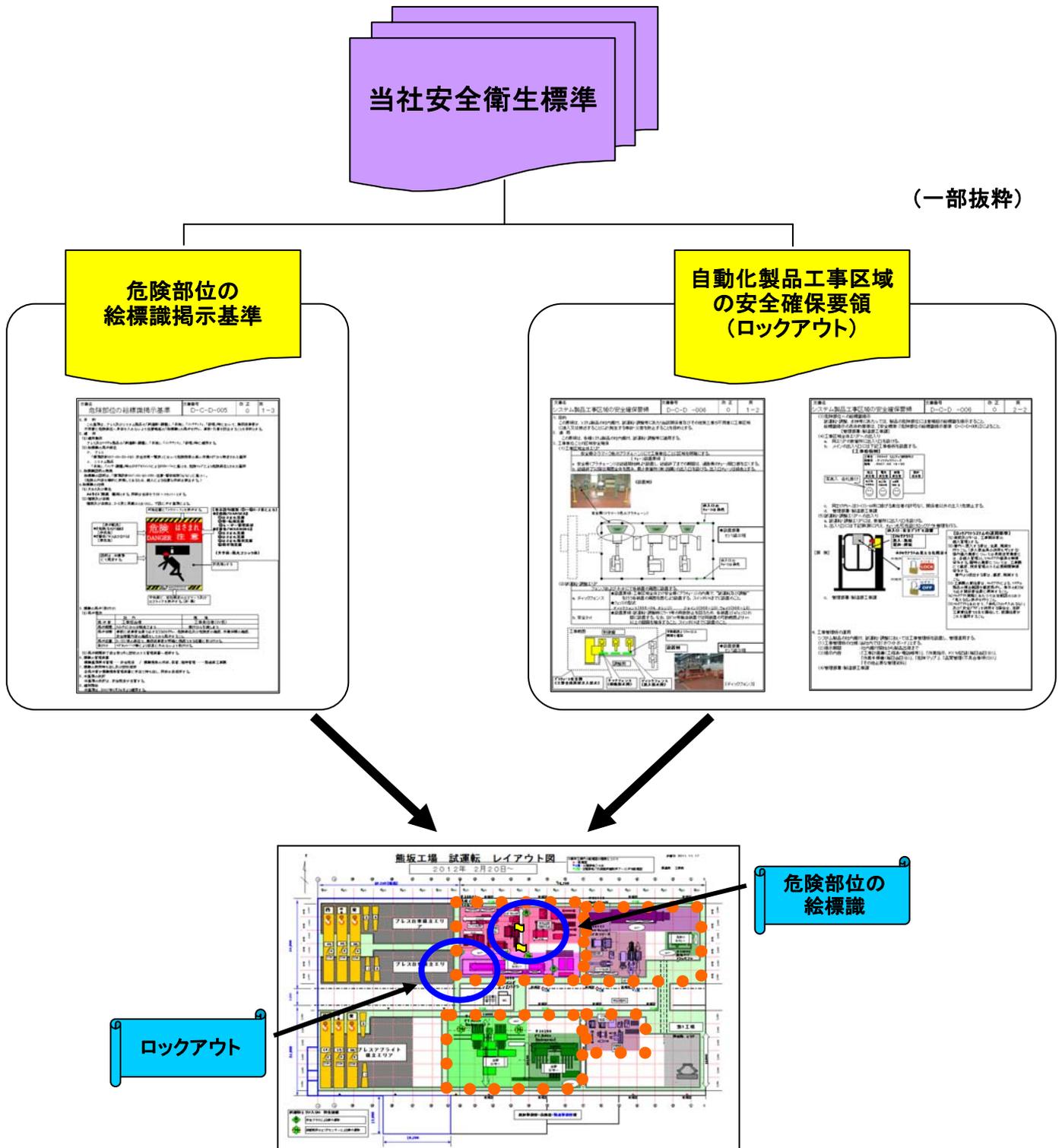


# “挟まれ・感電防止対策”の見える化活動

## 1. 活動概要





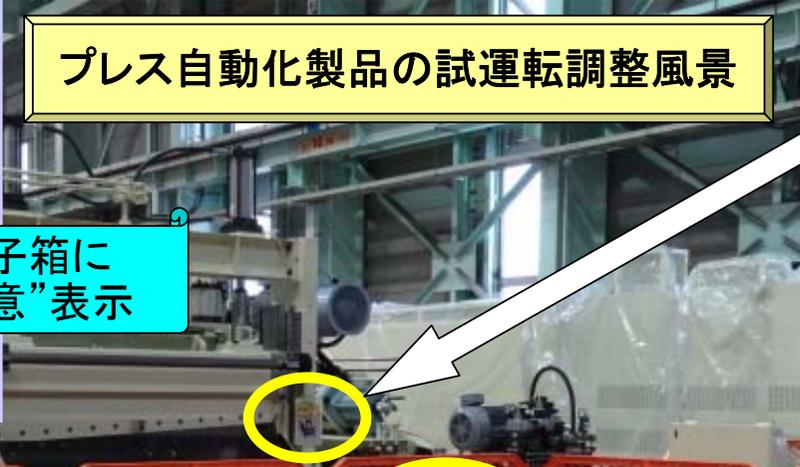


# チェーン・安全フェンスの設置による 工事区画の安全確保と危険絵標識掲示事例

★危険要素別に、「絵標識」を掲示し、危険要素が”見える”  
ことにより、ヒューマン・エラー防止を図る。



電気端子箱に  
”感電注意”表示



プレス自動化製品の試運転調整風景



機械稼働部に  
”挟まれ注意”表示



安全フェンスに  
”立入禁止”表示



プラチェーン

工事看板の設置  
作業者が見える！



工事管理区画が  
”見える”

# ロックアウト実例 (安全フラグによる動力遮断)

★安全フェンス内へ進入し作業する場合は、第三者による不意の電源投入での”挟まれ””感電”による事故・災害を無くすために安全プラグを抜いて、動力遮断後、ロックアウトを実施し進入している。



- ①錠前に写真付きの名札をつけ、安全フェンス内に誰が進入しているのか”見える”
- ②錠前はKYM記録で、個人毎の番号が”見える”管理をしている。

## ★ロックアウト教育器材



ロックアウト体感ボードによりオフライン教育を実施している。

- ①安全プラグロックアウト
- ②電源ブレーカロックアウト
- ③空油圧バルブロックアウトを常設している。